

れないことがわかってきたのである。

すなわち 火星の赤道帯にそった電波観測の結果などでみると 地形の高低と火星面の模様とは あまり大した必然的な関係はないように思える。

さらに マリナー9号の火星地図をみると ヘラスのように 明らかに低いクレーター状の盆地がはっきりわかる(この点に関しては サガンらの見解のほうが正しかったことになる)ところもあるが 他の多くの地域では 従来の海と陸の地域の区別とはまったく関係なく クレーターの密集地帯が広がっているところもあり 両者の関係の判断に迷うところが少なくない。

こうなると 火星の陸とか海とかいって来た模様は 一体何ものなのかという疑問がわいてくる。 それは

火星の地形(地表の景観)とはまったく別物の“何か”なのであろうか。

このように 火星面の模様の実態については 大きな問題が出てきたのであるが 長年観測家たちにも親しまれ 写真にもはっきりと撮影されてきた“模様”が 厳然と存在していることも事実である。 したがって 従来の模様の分類も無視できないし むしろ模様の実態について 真剣に考えなければならぬ事態が到来しているともいえるだろう。

そこで次回には この火星面の模様で焦点をあてて そのなぞをさぐっていくことにしよう。

(筆者は 東京都立武蔵高校教諭)

地学と切手



この国の鉱工業生産のうち 70%は鉱業生産であり 輸出の60%は鉱産物で占められる。 おもな鉱物資源は マンガン ウラン 鉄 金 ダイヤモンドであるが 最近では石油がのびてきた。

マンガン フランスピル(Moanda)に品位48% 埋蔵鉱量3億トンの鉱床があるといわれ 最近の生産は128万トン(Ogooue 鉱山)前後であり 鉄道で搬出される。 産出量は南アフリカ共和国について アフリカ2位であるが 埋蔵鉱量は3倍である。

ガボンの鉱業 切手と鉱物切手

P. Q.

ガボン共和国は(面積267,667km²)アフリカの中部の大西洋に面し コンゴ(ブラザビル)とカメルーンの間にはさまれ人口約60万の黒人国である。 もとはフランスの赤道領植民地だったが 1958年に独立を宣言し 1960年にフランス共同体内の独立国となった。 この名前は15世紀末にポルトガルの航海者により 入江が船のキャビンに似ていることによるという。 しかしむしろ「水と原生林のはざま」 シュバイツァー博士の病院所在地 ランパレネのある国といった方が判りやすいだろう。

切手は 1965年6月15日に発行された鉱業切手で Moanda 鉱山のマンガンとMounana 鉱山のウランの選鉱設備が画かれ 1971年7月20日の鉱物切手には マンガン鉱とウラン鉱が画かれている。

ウラン これもフランスピルの近くのムナナ(Mounana) 鉱山で開発され品位4% 100万トンの鉱量がある。 現在 1,077 t U₃O₈ (1970)が生産されている。

鉄 鉱 10億トンを越える埋蔵鉱量があるといわれ 1974年来には 年間1,000万トンの産出を目指して開発(アメリカヨーロッパの鉄鋼会社のおよびガボン政府と共同)が進められている。 これには565kmに及ぶ鉄道の敷設が必要であるが政府の最重点政策になっている。

石油・天然ガス 石油の生産は1957年から開始され 現在8つの油田で採油が行なわれ 最近では年産542(1969)万トンを越え 天然ガスの生産量は 31.7×10⁶m³ に達している。